

お疲れ様です。01Fl の奥田です 😊

今回のお題は、「今日カフェインを摂った人」でした。今日は研究室で重めの発表があったので、お昼にブラジルを飲んで気合い入れていました 🍷 ちなみに私が前回部日誌を書いたのは、2022年11月15日で、その日も研究室で激重の発表がありました。発表と部日誌には因縁があるみたいです。

まずは栗原くん、いや、栗原先生、とてもとても素敵な時間をありがとうございます。本当に楽しかったです。あんなに素敵な合奏だったのに、最後に言った言葉は

「こういう演奏の仕方もあるよ」

という謙虚なものでした。感動しました。

余談ですが、以前研究室の先生に「同級生で敵わないと思う人はいるか」と聞かれた時、私はパッと思い浮かばず隣の席の人の名前を答えました。でも、今聞かれたら栗原先生って答えます。もちろん、才のある同級生はたくさんいます。ただ、ここまで周りに良い影響力を与え、空気を変える圧倒的な人は思い浮かばないです。ハードスケジュールの中、一切疲れた表情を見せず、むしろ周囲の笑いを取りに行く姿を見て、人前に立つべくして立っている方だと思いました。なにより謙虚。オールラウンダーの人って、やっぱり人としての根幹部分がしっかりしているんだなぁととても勉強になりました。ありがとうございます。

前置きが長くなりました。

合奏の内容は以下のとおりです。

蝶々夫人

③ 39 小節目	クラ	危機的な感じを出して欲しい
65 小節目	クラ	ゴージャスにして欲しい
	打楽器	スモールゴングがいいなあ
72 小節目	全体	a tempo は前にサクサク前に進むように。 ペットのソリストが少し遅れる。
⑤ 93 小節目	全体	メゾフォルテでお願いいたします。
93 小節目	ホルン	フォルテ×3 の音量でお願いいたします。
100 小節目	サククス	サククスというよりは、フルートと一ペットが1番聞こえて欲しい。
⑦ 1 小節前	アタ外組	テヌートをもっと丁寧に。

119 小節目	全体	4 拍目で音が大きくなる人とそうじゃない人の区別を しっかりする。そうすると、木管のサウンドになる。
121 小節目	ピッコロ	低音もしっかり鳴らす
124 小節目	トランペット	トランペットの1番がもっと長く吹く
⑨ 直前	トランペット	もっと出す
ジャスト	チャイム	もっと出す
⑪ 直前	全体	ピアノなのでもっと抑える
172 小節目	メロディ	デクレッシェンドもっと分かるようにやる。 今は最後の音が一番大きくなってしまっている。
⑭ 直前	木管	六連符を吹ききる
⑮	全体	ここはチャイムを聞いて下さい。
⑱ 直前	タム	タムだけフォルテなので大きめに。
⑳	全体	4分の3を意識してちょっと早めに。
㉓	全体	音量はマックスから逆算してつくるから、ここはそんなに 頑張りすぎない
㉔ 325 小節目	ホルン	1クラのE♭が聞こえるまで5拍目のホルン伸ばす
329 小節目	全体 特にクラ	休符がある人、ない人でちゃんと音価守る。 クラはB♭が残っていないといけない
331 小節目	全体	クレッシェンドの位置が1拍目の人とフェルマータか らかかっている人は、ちゃんと場所を確認する。 ホルンとトロンボーンは音はったままで、ホルンの thirdは音出しめで。
全体	全体	歌うときは毎回 <b>エモいっすね</b> って言われるように歌い 直す
㉕ 333 ~ 334 小節目	低音	山形アクセントははっきりする。 特に2発目がゆるい
334 小節目	サッシン	もっと出す。直前のクレッシェンドを後ろにひっかける
335 小節目	全体	ピアノもっと落とす
339 小節目	ホルン	ホルン頑張れ、特にセカンド以下は吠えるように。
㉖ 以降	伴奏	バリサク以外の発音は全部硬めに。 4分の4から1拍ずつよく硬めに。
以降 343 小節目	全体	和音をすべて確認しよう(ここの和音聞き逃しました) 2拍目の和音 クラの音にごる

344 小節目		2 拍目の和音 クラ鬼門
345 小節目		2 拍目の和音
346 小節目		1 拍目 E♭マイナー 2 拍目 B♭マイナー 3 拍目 E♭マイナー 下の C♭がはまっていない 4 拍目 B♭マイナー B♭と F 確認
347 小節目		フェルマータの音 G♭アドナイン G♭の人アウト D はぶつかる音なので、自分がキモいことを自覚してわざとぶつかってきて欲しい
348～		ラスト 3 小節目間、伸ばしの p は相当丁寧に小さく。 その代わり ff のハーブを聞かせる。 <b>クレッシェンドの流れ</b> 管楽器と弦楽器 1 拍目から 3 拍目は p 3 拍目からクレッシェンドの開始 4 拍目一気にクレッシェンド

#### レミゼ

306 小節目	全体	フェルマータは 1 回目より 2 回目の方が大きく、さらに a tempo のではもっと大きく強く。
最後の小節		音量ではなく、音程の正確さで勝負しよう。

最後に私が合奏で感じていることを書かせてください。

あっきーさんからのメッセージにもありましたが、音に対する意識が全体的に低いと感じています。特にピッチに対して無頓着な人が多すぎます。私にも苦手な音はあるので、あまり偉そうなことは言えませんが、苦手な音だからピッチが合っていない人が多いというよりは、そもそも正しい音程のイメージが出来ていない人が多いように思います。(大部分はその違いすら自覚していない。) 私の願望としては、音程が合っているのは大大大前提で合奏を進めたいです。自分が吹いている音が高いのか低いのかも分からないようではダメだと思います。本当に反省してほしい。

私なりのピッチ観について考えてみたので、お時間のある方は読んでみてください。まず、ハモデなどの音を聞いて、その音に合わせに行く練習は必須だと考えています。チューナーを見ずに、自分の耳を頼りに音程を合わせに行く練習です。

単音のロングトーンでの練習でもいいですが、フルートというソノリテ、またはスケールの練習の際も開始点と到達点の音はハモデで鳴らしておくのと耳のチューニングができます。

この練習をすると、跳躍した先の音程が正確にとれるようになります。なによりチューナーを見ずとも、自分が吹いた音がどのくらい高いのか、低いのがすぐに分かるようになります。これは持論ですが、チューナーを見てピッチを確認するのは、耳ではなく目を使ったチューニング方法だと考えています。あくまでも最終手段です。

チューナーに頼るのは、自分の頭の中で基準となる音が鳴っている時が前提だと思います。基準の音程が分かっていない状態で確認しても、ほとんど意味がないその場しのぎの作業になってしまいます。もちろん、自分の音の傾向を知るのにチューナーを使うのは有効ですが、音程感を身につけるといふ点では、チューナーに頼りすぎるのは合理的ではないと考えています。

頭の中の基準音が定まっていなないのであれば、まずはハモデ等で正しい音程感を身につける必要があるはずですが。このような練習を続けて、音程感を自分のものにするためには、ピッコロであれば半年ぐらいいかかると思います。他の楽器は分かりませんが、とにかく継続が大事です。

ハモデアプリはいくらでもあるので是非インストールしてください。私が使っているアプリを紹介しようとしたら、今はもうダウンロード出来なくなっていました…。

また、音を飛ばす方向についても意識していることがあります。私は萩ホなどのホール練習では、ホール全体のどこの空間・壁に音を当てれば音が最も響くのかを1番初めに確認します。音を飛ばす方向は、客席正面の非常口あたりとよく言われますが、少なくともピッコロは客席の前から5列目あたりの天井に当てにいくと、音が最も響く場合が多いです。自分の席から色々な方向に音を飛ばしてみてください。そして1番響く場所を見つけた時の「当たった！」という感覚を経験してみてください。あくまでも私の場合ですが、そのポイントに音を当てに行くと、自然と全体のサウンドの上に綺麗に乗っかれます。ちなみに、この話を26ピッコロ吹きのすーみんさんにした所、「僕も最初に当てに行くポイントを確認する！」と仰っていました。(すーみんさんは、普段の川内ホールでの練習から音を当てるポイントを探していたそうです。その日のコンディションで毎回ポイントは変わるし、川内ホールだと分かりにくいけど、そういう意識はしていると仰っていました。)  
「先輩が言っていたから正しい！」みたいな権威主義的発言はしたくないですが、少なくともピッコロ、フルートには当てはまる話なのかなと思います。他の楽器にも応用できる話かもしれないので書いておきました。

悪いところの指摘だけして終わるのも嫌なので、私が2曲中で1番好きな箇所を書いて終わりにします。それは、蝶々夫人の⑩のトランペットソロです。力強くて、音楽的で、本当にカッコいいです。いつも感動をありがとうございます。

そして栗原先生風に締めくくると、

「01 のピッコロ吹きが普段意識していることはこんな風で、どこをどの程度参考とするかは自分で取捨選択してみてください。」

みたいな感じですかね。

最後までお読み下さり、ありがとうございました。